

2022年度 宇治市決算

コロナ禍、物価高騰のなか 約8.5億円もの黒字

2022年度の決算を審議する、市議会決算特別委員会が10月20日から行われています。

市は、2018年度～21年度に85億円の収支不足になるとし、「財政健全化推進プラン」のもと、市民サービスカット、使用料・手数料の値上げを行いました。

さらに、2021年の「行政改革審議会」で、2022年度～25年度に約50億円の収支不足、新たな行財政需要として約20億円、合わせて約70億円の財源不足になると「財政見直し」を示し(下図左)、行革を進めています。

しかし、2022年度決算では収支不足どころか、下図右のように歳入総額から歳出総額を差し引いた「歳入歳出差引」は13.49億円で、そこから翌年度への繰越財源を差し引い

た「実質収支」は8.58億円と大きな黒字となっています。単年度収支も前年度に続き黒字です。

単年度収支は黒字が続けばいいというのではなく、一定期間をおいて赤字になることもあり、その繰り返しがある状態が財政運営上通常の状態、黒字がたまる一方の状態は、家計では許されても、営利を目的とせず税を徴収する地方公共団体としては許されません。

また、当初予算で「財政調整基金」から2億円を歳入に繰り入れするとしていましたが、決算を見ると繰り入れは0円。

財政調整基金への積み立てを約3億円も積み増し、財政調整基金の残高は約36億円にもなっています。

財政見直し(2022(令和4)年度～2025(令和7)年度) (単位:億円)

		2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
歳入	見込み①	649.6	653.5	655.2	656.2
	うち市税	234.5	236.0	234.3	234.8
	うち地方交付税	76.7	77.6	77.0	78.1
歳出	見込み②	669.0	661.7	665.7	667.8
	①-②	-19.4	-8.2	-10.5	-11.6

※第8次行政改革大綱より

2022(令和4)年度決算 (単位:億円)

歳入	歳入総額	716.98
	うち市税	244.01
	うち地方交付税	93.41
歳出	歳出総額	703.48
	歳入歳出差引①	13.49
	繰越財源②	4.91
	実質収支①-②	8.58

新型コロナウイルス感染症、物価高騰で、くらしと生業がさらに大変になっています。

党議員団は、市民の暮らしの「生の声」を届け、税金のムダ使いを許さないよう市政をチェックします。「住民福祉の向上」という地方自治体の本来の役割を発揮し、市民の暮らしと生業を支えるため全力をあげます。

皆さんのくらしの声を、日本共産党宇治市会議員団へお寄せください。

～ 用語 ～

【形式収支】 歳入総額から歳出総額を差し引いた額。

【実質収支】 経常収支からさらに翌年度へ繰り越す財源を差し引いた額。実質収支は、市町村の財政運営の良否を判断する重要なポイントであり、一般的に、実質収支がプラスであれば黒字、マイナスであれば赤字となります。

【単年度収支】 その年度の実質収支から、前年度の実質収支を差し引いた額。

**日本共産党
宇治市会議員団**

議員団だより 2023年10月22日号
宇治市宇治琵琶33 宇治市議会内
TEL: 0774-22-3141(内線2817)
FAX: 0774-24-7884

ご意見、
ご相談は
こちらへ

